

「調査研究事業報告」

ウイルス感染症の疫学調査

微生物科

石田 茂・寺谷 巖・田中球英

井上睦子・佐々木陽子

はじめに

この事業は当初2病院(鳥取市、倉吉市)の小児科を定点として、患児の病原ウイルスを検索し、ウイルス感染症の病原的実態把握を目的に発足した。その後、全県的調査の必要性から範囲を広げて6定点(鳥取市、倉吉市、米子市において各2定点)とした。昭和56年度厚生省の「感染症サーベイランス事業」が始まり、昭和61年度「結核・感染症サーベイランス事業」へと移行し、この検査定点数が13定点に増加した。これに伴い、これらの検査定点から「結核・感染症サーベイランス事業」対象外疾病による検体も採取されるようになり、調査研究事業としても、その充実が図られた。

本誌前号(26号)に、昭和60年次(1~12月)の成績について報告したので、昭和61年1~3月及び昭和61年4月~昭和62年3月の成績について報告する。

材料と方法

被検者数は昭和61年1~3月が188名、昭和61年度が794名で、調査対象疾病名(臨床診断名)はともに咽頭炎、扁桃炎を含む上気道炎が最も多いが、口内炎、発疹症、下気道炎、その他種々で

ある。

材料と方法については既報(本誌26号)のとおりである。

結果と考察

昭和61年1~3月における検査対象臨床診断病名(以下診断名)とウイルス分離状況は表1に示すとおりである。分離率は188例中33例(17.6%)で、分離ウイルスはAdeno、Echo、Rotaの4種類である。Adenoは4 type(1、2、3、6)、Echoはtype3に分類された。

診断名で最も多いのは咽頭炎、扁桃炎を含む上気道炎90例で、その他10例以上のものは口内炎、発疹症、下気道炎(気管支炎、肺炎)であり、1~3例の診断名は一括してその他(10例)とした。また、調査票に診断名の記載の無い不明が19例ある。

診断名別ウイルス分離状況をみると、分離率の最も高いのは口内炎で、17例中16例(94.1%)からHerpes virusが分離された。診断名の最も多い90例の上気道炎では、Adeno virus 4例、Herpes virus 3例であった。

昭和61年度の診断名とウイルス分離状況は表2に示すとおりである。分離率は794例中182例

表1 1986年(1月~3月)のウイルス分離状況

臨床診断名	上気道炎	口内炎	発疹症	下気道炎	不明熱	仮性クループ	嘔吐症	反耳下腺性炎	その他	不明	合計
検査人員	90	17	14	10	6	5	4	3	20	19	188
分離ウイルス	Adeno virus type 1	1									1
	Adeno virus type 2	1							1		2
	Adeno virus type 3	1									1
	Adeno virus type 6	1									1
	Herpes virus	3	16								19
	Echo virus type 3								1		1
	Rota virus					1			4	3	8
合計 分離率(%)	7 7.8	16 94.1	0	0	1 16.7	0	0	0	6 30.0	3 15.8	33 17.6

上気道炎：上気道炎、咽頭炎、扁桃炎
下気道炎：気管支炎、肺炎

(22.9%)で、Adeno、Cox. A、Cox. B、Echo、Polio、Mumps、Herpes、Influenza、Rotaの9種類のウイルスが分離された。このうち、Adenoは7 type(1、2、3、4、5、6、11)に、Cox. Aはtype 9、Cox. Bは2 type(1、3)に、Echoは3 type(3、7、25)に分類された。また、Herpes 40株中の4株はtype 1で、InfluenzaはA(H₁N₁)型である。なお、分離されたPolioはtype 3でワクチン由来株であった。

診断名では、咽頭炎、扁桃炎を含む上気道炎438例(55.2%)が最も多く、ついで発疹症63例(7.9%)、口内炎48例(6.0%)、下気道炎31例(3.9%)等である。6~16例のものは不明熱、仮性クループ、腸重積、出血性膀胱炎、嘔吐症、膀胱炎であり、5例以下は一括して51例(6.4%)、調査票に記載がなく不明が104例(13.1%)であった。

診断名とウイルス分離状況をみると、口内炎が48例中32例(66.7%)で最も高い分離率を示し、うち31例(96.9%)はHerpes virusである。例数は少ないが腸重積9例中4例(44.4%)からAdeno virus、出血性膀胱炎8例中Adeno 2例とCox. A 1例の3例(37.5%)が比較的高率である。少数例の多くの診断名を一括したその他では51例中13例(25.5%)、診断名不明では104例中21例(20.2%)で各種のウイルスが分離されている。最も多い診断名の上気道炎では、438例中97例(22.2%)からウイルスが検出され、中でもEcho virus type 7 40例(41.2%)が目立ち、Adeno virus type 3 13例(17.5%)、Cox. B type 3 16例(16.5%)等が主なものである。

本年度はEcho virus type 7が上気道炎、診断名不明の患者から多く分離され、発疹症、不明熱からも分離されている。さらに、厚生省「結核

・感染症サーベイラス事業」の対象疾病である無 県においてはこのウイルスによる疾病の流行があ
菌性髄膜炎からも高率に検出されたことから、本 ったものと推定される。

表2 ウイルス分離状況(1986年4月~1987年3月)

臨床診断名	上 気 道 炎	発 疹 症	口 内 炎	下 気 道 炎	不 明 熱	仮 性 ク ル ー プ	腸 重 積	出 血 性 膀 胱 炎	嘔 吐 症	痔 炎	そ の 他	不 明	合 計	
検 査 人 員	438	63	48	31	16	15	9	8	6	6	51	104	794	
分 離 ウ イ ル ス	Adeno virus type 1	1						1					2	
	Adeno virus type 2	5					3				4		12	
	Adeno virus type 3	17					1		1			2	21	
	Adeno virus type 4	1											1	
	Adeno virus type 5	4											4	
	Adeno virus type 6							1					1	
	Adeno virus type 11							1					1	
	Coxsacki virus A type 9											1		1
	Coxsacki virus B type 1		2											2
	Coxsacki virus B type 3	16		1	1								1	19
	Echo virus type 3		1											1
	Echo virus type 7	40	3			1						2	10	56
	Eeho virus type 25	1												1
	Polio virus type 3		1											1
	Mumps virus	1											1	2
	Herpes virus type 1	3		3		1						1		4
	Herpes virus not type	4		28	1							1	2	36
Influenza virus A ソ連	4												4	
Rota virus											4	5	9	
合 計	97	7	32	2	2	0	4	3	1	0	13	21	182	
検 出 率 (%)	22.2	11.1	66.7	6.5	12.5		44.4	37.5	16.7		25.5	20.2	22.9	

上気道炎：上気道炎、咽頭炎、扁桃炎
下気道炎：気管支炎、肺炎

ま と め

1 ウイルス感染症が疑われる患者で、厚生省「結核・感染症サーベイランス事業」の対象外疾病におけるウイルス分離率は、昭和61年1～3月で33/188例(17.6%)、昭和61年4月～昭和62年3月が182/794例(22.9%)であった。

2 上気道炎をはじめ、その他の疾病、診断名不明の患者から、多くのEcho virus type 7が分離され、これによる疾病の流行があったものと推定される。

3 分離されたInfluenza virusはすべてA(H₁N₁)型で、今冬はA/ソ連型の流行が確認された。